

## 研究室の仲間との日々は私の宝物

羽座 則史 （教育・昭和56年卒）

卒業して40年以上経った今、大学時代について一番に思い出すのは、「社研」の先輩・同期・後輩と過ごした日々である。

今でもあるのかどうか分からないが、教授専用の部屋とは別に、学生が使う「研究室」が専攻ごとに与えられており、どのサークルにも属していなかった私は、この研究室が大好きだった。講義やゼミのない時間（いや、あってもか）の大半を研究室で過ごしていた。朝から日付が変わるぐらいまでずっと過ごす日もしばしばあった。試験の前などはそこで必死に勉強もしたが、それよりも研究室に行くに必ずだれかがいて私の話し相手になってくれたことの方が深く記憶に残っている。たわいのない話はもちろんのこと、真摯に悩みの相談にも乗ってくれた。ギター片手にフォークソングを大声で歌ったり、トランプや麻雀などをしたりもしたが、当時の先生や守衛さんはたいへんおおらかで、「あまり遅くまで騒ぐなよ」とにこやかに声をかけるだけで許してくれていた。本当にいい時代だったと思う。研究室は、いつも安心して過ごせる、私にとっての居場所だった。

教育実習を終えて久しぶりに研究室に顔を出した何人もの先輩から、実習での苦労とともに実習を通して改めて感じた教職の素晴らしさについてたくさん話を聞くことができ、それまでぼんやりとしか持っていなかった教職への憧れの気持ちが強くなっていったのも研究室で多くの時間を過ごしていたおかげだ。

また、当時の社研には野球好きの男子学生が多く、学内のソフトボール大会では、何度か決勝戦まで駒を進めた（気がする）。研究室が最上階にあり、隣の棟と繋ぐ廊下の屋上部分にすぐに出られたので、そこでよくキャッチボールをしたりピッチング練習やバッティング練習をしたりしていた成果だったのかも。

大学祭の前日に、出店する屋台を守るという名目で屋台の周りで朝まで飲み明かしたり、新歓合宿や夏のキャンプなどで夜遅くまでいろいろなことについてみんなで熱く語り合ったりしたこともいい思い出として残っている。

卒業後は研究室とは疎遠になっていたが、数年前に社研の集まりに参加する機会があり、懐かしい顔がたくさん写っている当時のアルバムを見せてもらった。あの頃の写真がまだ残っていたことへの驚きとともに、忘れかけていた色々な出来事を鮮明に思い出し一人で感慨にふけていた。またこの人たちと会って話が見たいなと思った。

私の大学時代の4年間は、人に恵まれ、幸せな日々を送ることができた密度の濃い貴重な時間であり、一生の宝物である。お世話になった皆さん、本当にありがとうございました。また集まって飲みましょう。